

◆ きょうどの文化人

○ 詩人「草野心平（1903年～1988年）」



昭和40年南秋津五光の自宅にて

心平は、いわき市小川町に生まれました。

20歳のときに初めて雑誌に詩がのせられてから、85歳でなくなるまで、心平はすばらしい詩を書き続けました。心平はスケールの大きな詩を書くことで知られ『蛙』『富士山』の詩人ともいわれました。

いわき市名誉市民のほか、1987年（昭和62年）には文部省文化勲章を受けました。



「蛙」
昭和13年 三和書房



「富士山」
昭和18年 昭森社



「天」
昭和26年 新潮社

教科書にのった心平さんの詩

春のうた

かえるは冬のあいだは土の中にいて春になると地上に出できます。そのはじめての日のうた。

ほっ まぶしいな。
ほっ うれしいな。

みずは つるつる。
かぜは そよそよ。

ケルルン クック。
ああいにおいだ。

ほっ いぬのふぐりがさいている。
ほっ おおきなくもがうこいてくる。

ケルルン クック。
ケルルン クック。

「げんげと蛙」より

秋の夜の会話

さむいね。
ああさむいね。

虫がないてるね。
ああ虫がないてるね。

もうすぐ土の中だね。
土の中はいやだね。

君もずいぶん痩せたね。
どこがこんなに切ないんだらうね。

腹だらうかね。
腹とつたら死ぬだらうね。

死にたかあないね。
さむいね。
ああ虫がないてるね。

「定本蛙」より

(協力：草野心平記念会)